

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2016年8月)

発表日 2016年9月9日(金)

～景況感に明るさが少しずつ戻り始める～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 伊藤 佑隼
TEL : 03-5221-4524

	景気の現状判断(方向性) 合計					景気の先行き判断(方向性) 合計				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2015年	45.6	47.4	43.9	46.7	54.8	50.0	49.8	48.4	51.8	57.1
	50.1	49.9	48.4	51.1	59.1	53.2	51.4	52.4	53.4	57.3
	52.2	48.1	50.9	52.7	59.4	53.4	51.8	53.1	52.0	58.7
	53.6	49.9	53.2	52.8	58.1	54.2	51.5	53.9	53.1	59.5
	53.3	50.8	53.6	50.2	58.5	54.5	51.8	54.3	53.7	57.8
	51.0	49.9	50.4	51.3	54.7	53.5	51.7	52.9	53.9	56.6
	51.6	49.8	50.8	52.4	55.7	51.9	51.5	51.3	51.9	56.0
	49.3	50.0	48.8	48.3	55.2	48.2	49.8	47.4	48.7	52.7
	47.5	49.1	47.0	46.9	52.7	49.1	50.3	48.9	48.3	52.3
	48.2	51.6	48.1	47.4	51.1	49.1	51.3	49.3	47.5	51.5
	46.1	50.1	44.4	47.8	54.0	48.2	51.4	47.9	47.4	52.2
	48.7	50.5	47.7	48.9	55.1	48.2	51.1	47.2	48.2	55.2
2016年	46.6	48.5	45.6	45.9	54.8	49.5	49.4	48.8	49.2	54.4
	44.6	44.6	43.2	45.8	51.6	48.2	45.7	48.5	46.8	49.7
	45.4	41.6	44.3	46.5	50.8	46.7	45.3	46.4	46.4	49.9
	43.5	40.0	42.2	45.0	48.9	45.5	42.9	45.3	45.3	47.8
	43.0	40.6	41.9	43.5	49.3	47.3	44.6	46.5	47.9	51.5
	41.2	39.9	40.2	42.0	46.0	41.5	39.7	41.5	41.1	42.7
	45.1	43.2	44.5	45.2	49.2	47.1	46.6	46.6	47.8	49.6
	45.6	46.0	44.1	47.2	52.1	47.4	48.9	46.3	48.7	52.4

(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

○現状、先行きともに2ヶ月連続で改善

内閣府から発表された8月の景気ウォッチャー調査(調査期間: 8月25日～月末)では、現状判断D Iが45.6(前月差+0.5pt)、先行き判断D Iは47.4(同+0.3pt)となった。

季節調整値でみると、現状判断D Iは前月差+2.8ptと改善、先行き判断D Iも同+2.3ptと改善した。好不況の分れ目となる50を下回る状況が続くものの、2ヶ月連続の改善となった。こうした動きを受け、内閣府は基調判断を「持ち直しの兆しがみられる」から、「持ち直しの動きがみられる」に上方修正した。猛暑により夏物商材の売れ行きが好調だったことや足元で新規受注が増加し始めたことなどが景況感を押し上げたとみられる。先行きについては、依然として、円高の進展や不透明な金融市場を不安視する声が挙がっているものの、景気対策による公共工事の受注の活発化やそれに伴う売上の増加を見込むコメントが目立つようになるなど、少しずつではあるが景況感に明るさが戻りつつある。

○現状: 家計部門は前月から悪化

現状判断D I(原数値)の内訳をみると、家計関連D Iが前月差▲0.4ptと悪化、一方で、企業関連D Iが同+2.0pt、雇用関連D Iが同+2.9ptとそれぞれ改善した。

家計部門のコメントを見てみると「猛暑とリオデジャネイロオリンピックによる需要拡大があった。特にエアコンを中心に冷蔵庫、テレビ、ブルーレイレコーダーが好調で、単価も前年を上回っている。また、洗濯機の需要は全国的に高く、ドラム式洗濯機を中心に高単価の機種が好調である（家電量販店）」や「今年は『山の日』という新しい休日ができ、旧盆と連続していることもあり、割と良いシーズンだった。それに伴い、冷たいものや飲料などを中心に販売量が伸びている（コンビニ）」といった猛暑により夏物商材の売れ行きが好調だったことや今年から新設された「山の日」の好影響を示唆するコメントが見られた。一方で「消費環境が悪化し続けていることに加えて、今月は台風や猛暑、また集中豪雨といった天候の不安要素が加わったため、やや悪くなっている（百貨店）」や「8月は売上が前年比ではかなりの落ち込みで、販売単価も低い商品しか売れない。客の財布のひもは非常に固い（一般小売店[電機屋]）」といったように、台風や豪雨により客足が遠のいたことや節約意識の高さによる押し下げの方が大きく、家計部門は前月調査から悪化したようだ。

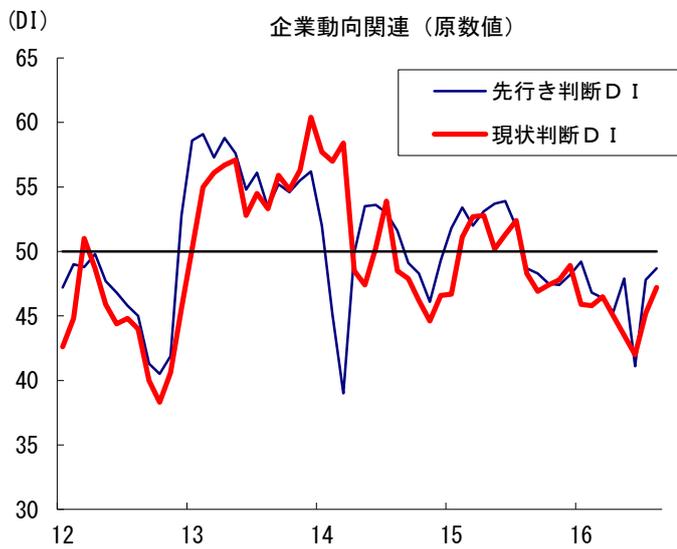
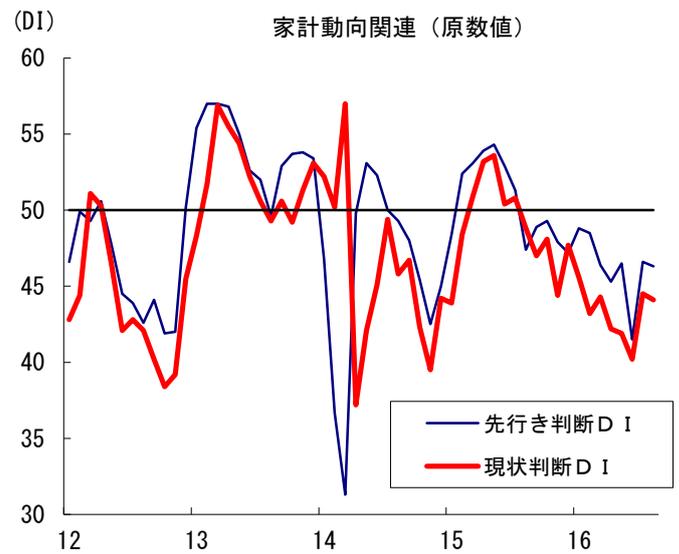
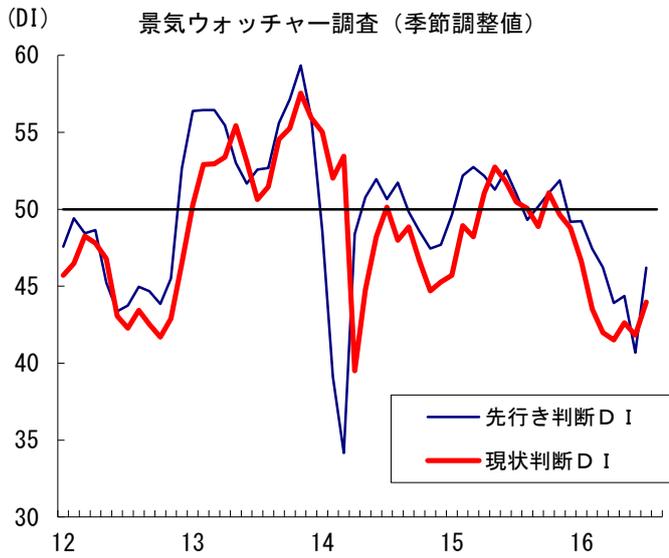
企業動向関連は、製造業（同+1.6pt）、非製造業（同+2.3pt）とともに2ヶ月連続で改善した。企業動向関連では「素材型産業なので為替や原料価格により売上に対して利益率が向上しているが、これらは外因であり、売上が伸びない環境では景気の好転は望めない（化学工業）」といった売上が伸び悩んでいることを示唆するコメントが見られた。一方で、「大口顧客の半導体製品価格が回復しつつあり、業績にもその影響が表れてきている（電気機械器具製造業）」といったコメントもみられた。また、「公共工事は農業関係の受注が伸びており、民間建築工事も分譲マンション、商業施設が順調に推移している（建設業）」といった公共工事の受注が増加していることを示唆するコメントも見られた。総じて見ると、ITや公共工事関連の新規受注増加を示唆するコメントが増えてきており、企業部門の景況感は持ち直しつつあるようだ。

雇用関連も前月差+2.9ptと改善した。コメントを見ると「新規求人数は前年同月に比べて増加している。特に前月減少していたパートタイム求人も、フルタイム同様増加に転じている（職業安定所）」や「離職者が減少し求人は増加している。正社員求人も少しずつ増えている（職業安定所）」など、新規求人数及び有効求人数が高水準で推移する中で、企業の採用意欲が高まっていることを示唆するコメントが多くみられた。

○先行き：景況感の持ち直しが見込まれる

先行き判断DI（原数値）の内訳をみると、家計関連DIが前月差▲0.3pt、企業関連DIが同+0.9pt、雇用関連DIが同+2.8ptとなった。

コメントを見ると、家計関連では「購買意欲を刺激する要因が乏しく、為替や株価の先行きにも不透明感があり、高所得者も消費を控えるおそれがある（百貨店）」といったコメントが見られた。企業関連では、「円高が定着してきており、自動車産業を中心とする当地域では、消費者マインドの冷え込みが懸念される（建設業）」といったコメントが見られた。家計の節約志向や円高の進展、不透明な金融市場が景況感の重石となっているようだ。一方で、「秋口から年末にかけて受注が活発になって売上も増加する（四国＝パルプ・紙・紙加工品製造業）」や「長期低迷していた油圧シャベルの仕事が、若干ではあるが上向きに転じ、その他、新規継続案件も立ち上がってくる見込みである（一般機械器具製造業）」といったように、景気対策に伴う公共工事の受注の増加が続くことを見込むコメントが目立つようになってきた。上述したような下押し要因は残るものの、企業、雇用を中心に景況感に明るさが少しずつ戻ってきていることがうかがえる。



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」